温泉寺

歴史上重要な温泉寺へ立ち寄らずして、城崎温泉への訪問を完結させることはできません。そこは、この温泉の守護寺として知られています。大師山の中腹にあり、本堂へは城崎温泉ロープウェイで上がるか、またはおよそ 500 段の石段を登ることができます。神聖な水へ入る前にこの寺を参ることは、かつて必須の儀式でした。温泉寺を参拝すると水浴び用の特別なひしゃくを受け取ることができ、これは温泉への入場券としても使用されました。入浴を終えると、ひしゃくは寺へと返却されました。

温泉寺は仏僧の動智上人によって 738 年に開創され、多数の重要な工芸品を収蔵しています。そのひとつ、十一面観音菩薩または十一面観音として知られる仏教神の像は、日本の重要文化財に指定されています。慈悲と情けの菩提薩埵として知られるこの特定の神が展示されるのは、3 年間だけです。それ以外の期間はこの神聖な木像は 33 年間箱に収められたままになり、年に一度の温泉寺まつりで 2 日間、上半身のみご開帳されます。